



## 3年生道徳の授業

昨日28日(月)の5時間目に、3年2組で道徳の研究授業が行われました。教科書の中の「きまりのない国」というお話でした。

あらすじ:きまりや約束を守ることが苦手なけんたが、妖精と一緒にきまりのない国で過ごします。きまりのない国では、好きなことだけをいつでも何でもしていいのです。しかし、きまりがないため、遊園地では順番に並ばないので、いざこざが起きています。つまらないから帰ろうとして、青信号で道路を渡っていても、信号は守らなくていいため、車から轢かれようとしています。けんたは、きまりがないことで困ってしまい、現実の世界にもどってくるというお話です。

今回の授業の「見つめる心(めあて)」は、「きまりを守るために大切な心は何だろう」というものです。教材の中の「きまりのない国」に行くときのけんたと、「きまりのある国」に戻ることができたけんたの気持ちをけんたになりきった役割演技で子供たちは、思いを伸び伸びと出し合っていました。例えば「きまりのない国」に行くけんたは「よっしゃあ、宿題がない。」「食べ放題。買い放題だあ。」と答えていました。すると担任は、「それじゃあ、きまりのない国」にずっといる方がいいよね?この国にいるままでいいんじゃないかな?」とさりげなく子供たちに問うと、子供たちは「きまりのある国の方が命を守れる。」など、きまりのあるよさについて考えていきます。すかさず「きまりのある国」に戻って来たけんたになりきって役割演技をすると、「やったあ、戻れる!がまんすればゲームもできる。」「やったあ、こっちの世界の方がいい。」と答えると、担任が「なぜきまりがある方がいいの?」問い返すと、「こっちの方が、危なくない。」「きまりがあると、できることが増えるから。」と価値に気付きます。担任から「きまりを守るために大切な心は何だろう。」と問いかけると、子供たちは「がまんする心。サッカーなどスポーツはルールを守らなくてはいけないし、それをするにはがまんが必要だから。」など意見を活発に出し合いながら、考えを共有して行きました。授業の終盤で、自分のこれからを考える場面では、「これまでの自分は、きまりを守らないことがありました。だけど、これからは、がまんする心を意識したいです。それでもまたやってしまったら、その場で『そのきまりがなかったらどうなる』ということを考えて行動したいです。」など自分を見つめながら、それぞれが自分の「これから」についての意見を真剣に考えていました。



最後は、3年生がきまりよく右側を歩いている様子や、トイレのスリッパを並べている様子の写真が提示され、子供たちも誇らしい顔つきになっていました。

今回の道徳の授業について、子供たちが帰った後に、外部から講師を招いて、全職員で授業研究会を行いました。そこでは、皆で一人一人が授業への疑問を出し合ったり、改善点を述べ合ったりしました。3年生が伸び伸びと役割演技をしている様子や真剣に授業に取り組む姿に、感心していました。これからも全職員で、子供たちの道徳性を高める授業づくりを考えていこうと思います。

今回は、子供たちと職員とで帯西イエローの心を醸成する方法について、しっかり考えることができる研究授業となりました。今回の授業は3年部でも共通実践を行い、3年生全員の心が育ちました。3年2組の皆さん、貴重な道徳の授業を共有させていただき、ありがとうございました。